

カービュー マーケットウォッチ (2012年9月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で11カ月連続プラスも伸び率は10%台に

12年 8月順位	12年 7月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	23,828
2	(2)	→	アクア	トヨタ	19,076
3	(3)	→	フィット	ホンダ	12,249
4	(7)	↑	セレナ	日産	9,872
5	(4)	↓	カローラ	トヨタ	6,861
6	(5)	↓	ヴィッツ	トヨタ	6,274
7	(6)	↓	フリード	ホンダ	5,633
8	(-)	↑	ポルテ	トヨタ	4,883
9	(-)	↑	スペイド	トヨタ	4,670
10	(8)	↓	ステップワゴン	ホンダ	4,300
11	(9)	↓	デミオ	マツダ	4,277
12	(19)	↑	CX-5	マツダ	3,576
13	(23)	↑	スイフト	スズキ	3,308
14	(12)	↓	エスティマ	トヨタ	3,235
15	(13)	↓	パッソ	トヨタ	3,209
16	(14)	↓	インプレッサ	スバル	3,142
17	(15)	↓	ヴォクシー	トヨタ	3,027
18	(11)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	2,883
19	(18)	↓	ソリオ	スズキ	2,882
20	(10)	↓	マーチ	日産	2,692

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で11カ月連続プラスも伸び率は10%台に

軽乗用車は好調だが、3/5ナンバー乗用車は1ケタの伸び

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した8月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は31万5791台で、前年同月比は115.6%（貨物車、バスを含む新車総数は37万777台、前年同月比112.4%）と11カ月連続で前年を上回った。

ただ、今年に入って常に30%超だった伸び率が15.6%と10%台にとどまり、減速感が出始めたのが気になる。軽乗用車は前年同月比30.9%増の11万779台だが、3ナンバー普通乗用車が同7.2%増の9万8386台、5ナンバー小型乗用車は同10.1%増の10万6626台で、3/5ナンバー乗用車合計では20万5012台の8.7%増とひとケタ台の伸びに終わった。東日本大震災前の2010年と比べると、2010年の7、8月はエコカー補助金終了間際の駆け込み需要が発生していたとはいえ、3/5ナンバー乗用車合計では2カ月連続で下回っており、今後の動向が注目される。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産マーチの2692台、三菱ミラージュの1392台含む）は18万8156台、前年同月比は108.5%。メーカーブランド合計ではトヨタ、マツダ、スバル、スズキは前年を上回ったものの、レクサス、日産、ホンダ、三菱、ダイハツは前年割れで、それもホンダと三菱を除き2ケタのマイナスだった。

月間ランキングでは15カ月連続トップの「トヨタ プリウス（α含む）」、2位「トヨタ アクア」、3位「ホンダ フィット（シャトル含む）」のトップ3は5カ月連続で動きはなかったが、4位に8月にハイブリッド車（HV）を追加した「日産 セレナ」が3ランクアップ。発売後約1カ月でセレナ全体の月間販売目標6300台の2倍超の受注を集め、そのうちHVのSハイブリッドが約90%を占めている。日産は乗用車全体では前年割れだったが、セレナに加え、9月に発売された「ノート」も受注が1万2000台に達しているだけに、9月以降は勢いを取り戻しそうだ。

軽自動車は貨物車を含めた全体でも13万8405台/前年同月比122.1%と11カ月連続のプラス。車名別では「ホンダ NBOX」が1万7308台で、5カ月連続トップとなり、軽を含めたホンダの乗用車全体では41.6%増と好調をキープしている。このほかダイハツも好調で、軽を含めればダイハツの乗用車全体も16.4%増と前年を上回っている。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万6265台、前年同月比は109.6%（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では2万940台、同110.9%）で4カ月連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が3506台/前年同月比100.1%で4カ月連続トップ、2位はメルセデス・ベンツで3028台/同124.6%、3位は2593台/同104.1%のBMW（ミニを除く）だった。4~10位のアウディ、ミニ、ボルボ、フィアット、プジョー、ジープ、フォードのうち、プジョーだけが前年同月比79.0%と前年割れで、8月も前年同月比114%増と好調だったアルファロメオは259台で、13位に後退した。

■ココも気になる！ その1

ポルテ／スペイドをはじめ、ニューモデルが好調なトヨタ

昨年、軽を含む乗用車販売で前年比 73.2%と国内メーカー中、最も落ち込んだトヨタが順調に回復している。8月単月では10万8521台／前年同月比 22.5%増、1～8月累計では107万6361台／前年同期比 75.8%と、まさにV字回復といえる復調ぶりで、震災前の10年8月時点と比べても、軽乗用車のプラス分があるとはいえ1～8月累計は2.5%増（軽を除いても0.3%増）となっている。

世界市場でも同様で、今年上半期の世界新車販売は上半期としては過去最高となる497万台（ダイハツや日野を含むグループ全体）、前年同期比 33.7%増を達成。昨年年間トップだったGM（ゼネラルモーターズ）が467万台、同じく2位のVW（フォルクスワーゲン）グループが445万台だったことから、2年ぶりの世界トップ奪還となった。

今年のトヨタは、国内では2月の「86」を皮切りに、5月「カローラアクシオ／フィールダー」、7月「ポルテ／スペイド」、8月「オーリス」とニューモデルを積極投入。しかも、こうしたニューモデルが8月の軽を除く乗用車ランキングでカローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）が6861台（前年同月比 15.1%増）で4位、ポルテが4883台（同 320.6%増）で8位、スペイドは4670台（一）で9位、86も2430台（一）で23位と、いずれもベスト30入りを果たしている（オーリスは新旧含め1139台だが、前年同月比は92.1%増）。

特にポルテ／スペイドは、ともに月間販売目標4000台に対し、発売後約1カ月でポルテが約1万1000台、スペイドが約1万3000台という好調な受注となっているだけに、今後も大きな伸びが期待できそうだ。さらに売れ行き好調な「アルファード／ヴェルファイア」の一部改良や12月と噂される「クラウン」のモデルチェンジなど攻め手に欠かない状況だけに、トヨタの勢いはまだまだ加速するはずだ。

■ココも気になる！ その2

世界有力市場の売れ筋ブランドをチェック！

世界のクルマ市場は、昨年間で1851万台が売れ、3年連続で世界No.1市場となった中国を筆頭に、アメリカ1280万台、日本421万台、ブラジル363万台、インド329万台でベスト5（ヨーロッパは主要28カ国合計で1357万台。そのうちドイツが317万台でトップ）に並んでいる。日本では昨年は大きく落ち込んだとはいえ、トヨタが118万台でダントツだが、中国やアメリカではGMがトップの座をキープ。そこで昨年の年間販売データをもとに主要市場の売れ筋メーカーブランドをチェックしてみよう。

中国では総販売台数1851万台のうち、乗用車は1447万台だったが、そのなかではGMが

255万台、前年比8.3%増とトップ。VWは17.2%増とGMを上回る伸び率となり、225万台。日本メーカーでは日産が125万台、21.9%増と大躍進を果たした。トヨタは4%増の88万台、ホンダは4.5%減の62万台だった。

アメリカではGMが13.2%増の250万台でトップ。以下、フォード214万台（11.0%増）、トヨタ164万台（6.7%減）、クライスラー137万台（26.2%増）、ホンダ115万台（6.8%減）、日産104万台（14.7%増）と続き、VWは44万台（23.3%増）で10位となっている。

世界第4の市場に成長したブラジルではフィアットが75万台でトップ。2位がVWの70万台、3位がGMの63万台と続き、トヨタは9.9万台で8位、ホンダが9.3万台で9位、日産も6.7万台で10位につけた。

インドではスズキが99.7万台でダントツのトップ、2位は韓国のヒュンダイで37.3万台、3位が地元のタタモーターズで35万台。トヨタは13.6万台で5位、6位はGMで11万台、以下、フォード9.6万台、VW7.8万台、ホンダ4.8万台で続いている。ただブラジル同様、各メーカーが進出計画を公表しているだけに、こうした新興国市場も要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム（ pr@carview.co.jp ）

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
